

暴力やテロ、戦争を無くすには



●医学博士、IPPNW（核戦争防止国際医師会議）元共同議長

メリーウイン・アシュフォード Mary-Wynne Ashford

1939年、カナダ・アルバータ州生まれ。カルガリー大学で医学博士、サイモン・フレーザー大学で教育カリキュラム開発の博士号を取得。医師、ビクトリア大学教授などの傍ら反核運動に尽力、IPPNW 副議長などを経て1998年～2002年共同議長

訳：出版部 協力：松井和夫

はじめに

暴力やテロ、戦争を止めるため、危険を顧みず行動した人々の話を聞いては、驚き、恐れ入る思いで長年過ごしてきた。私は、そうした行動がコミュニティや政府に影響を与えると確信していたが、それには何の根拠もなかった。それでも、知恵と正義が恐怖と圧制を打ち破るような話を集め続けた。2004年、環境作家のガイ・ダウンセイから、彼の著作「解決法シリーズ」の中で、紛争の平和的解決に関する本を書くように頼まれた。それは戦争やテロ、暴力の防止に成功した非暴力活動について説明するもので、それらの話を一般に伝えるのと同時に、平和を希求する人々の力を発見する機会となった。こうして、『101 Solution to Violence, Terror, and War』¹⁾ が2007年に刊行され、2008年には日本の「核戦争に反対する医師の会」によって、和訳『平和へのアクション 101+ 2』²⁾ が出版された。

非暴力のサクセスストーリー

取材を通して、個人や、社会正義と人権を

掲げるグループの影響力に確証を得た。そして、悲観的に見えていた世界が、希望と楽観に変わるのに驚かされた。私はそれまで20年間、反核運動を続け、ジョージ・W・ブッシュ米大統領の登場で、それが激しく後退するのを見てきた。希望を失いそうになる自分と闘いながら続けてきたが、各地の成功事例を書き始めると、そんな気持ちも次第に薄れていった。

当初は本にできるだけの話が見つかるか不安だったが、難しいのは話を見つけることではなく、数百にも及ぶ事例の中から、掲載するものを選ぶ作業であることに、すぐに気がついた。

執筆にあたって関係者に連絡すると、皆とても熱心に、情報や画像、関連しそうな連絡先などを教えてくれた。毎日メールを開くたびに、新たな情報が送られてきてゾクゾクした。特に法による権利保障がない国々で、戦場の子どもたちの勇気や、弾圧に抵抗した人々のユーモア、女性の創造性がみえてきた。

最終稿を出すころには、主要メディアには現れなくとも、水面下で世界的な社会革命が進行しつつあると確信していた。世界中で、政府に軍事力ではなく外交によって紛争解決させる

ことに成功している。これは、世界が戦争から遠ざかっている証拠といえないだろうか。

ただ、反核運動の仲間たちは、軍縮に対する政府の抵抗がますます強くなるのを感じており、権力者に変化がみられないことに絶望する者もいた。事実、私たちは核兵器に関する世論に大きな影響力を持っていたが、米政府が変わらなければ、結果は見えてこない。

冷戦後の変化の勢いが増し、世界的な社会革命が始まりつつあることを確信したとはいえ、確固とした統計的根拠なしに、そのような主張をするのは気が重かった。ところが、編集者に最後のページを送る直前に、その根拠がメールで送られてきたのである。

それは、「21世紀の戦争と平和」(人道的安全保障センター、2005年)³⁾というレポートだった。ブリティッシュコロンビア大学にある同センターは、カナダのロイド・アクソワシー元外務大臣によって設立され、調査はカナダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリスの中央省庁などが出資して実施された確かなものだった。

戦争と武力紛争の世界的な衰退

レポートは、私の予想を裏付けた。冷戦後、世界の戦争の数が目に見えて減っていただけでなく、60人の独裁者を、武力をほとんど使わずに退陣させていた。戦死者も国際危機も減少し、100の戦争が静かに終わっていたのだ。これまで、出席した会議や主要メディアなどでも、このことを話題にする者はおらず、最初はなかなか信じられなかった。

同センターは、世界が「戦争嫌い」になったと結論づけた。彼らは、この劇的な変化について①国連による平和維持活動と建国の成

功②特に国際刑事裁判所の設立による国際法の強化③市民階級の成長による影響—の3つの要素を示した。「市民階級」とは、単独または非営利の団体で、社会変革を進めようと活動する人々を指し、政府や軍、経済界に良心を与える原動力である。私はこのレポートで初めて、国際問題における市民組織の重要性を認識した。現在、同センターの3つの年次報告がウェブサイトダウンロードできる。^{3) 4) 5)}これらの報告は、武力紛争の減少を示すと同時に、私たちが起こすアクションは小さくみえても、意思決定機関に強い影響を与えることを表している。

このニュースは多くのメディアが関心を持ち、人々はいっそうの努力に奮い立つだろうと思った。ところが、最初にワッと騒いだ後、レポートは黙殺された。

平和・軍縮運動を進めてきた人々が落胆しないように、私は同センターの調査などについて日本や欧米など世界各地で講演してきた。世界は戦争に向かっており暴力的で残忍なものだと思っていた聴衆は、実際にはそうでないと知り驚いていた。成功の積み重ねによるこの事実は、人々に希望を与え、また新たな活動につながったようだ。

つい最近のドイツで行った講演で、冷戦終結後、主要な戦争や大量殺戮が増えたと思う人に手を挙げてもらおうと、やはりほとんどの人が戦争は増えたと考えていた。そこで、私は例の統計資料の表を見せた。^{3) 4) 5)}

講演後、あるジャーナリストが「クイズにはずれて戸惑ったが、隣に座っていた教授も不正解だった」と話しかけてきた。そして、平和や軍縮を専門とする彼が、なぜその情報を知ら

表

<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦後、主な戦争と大量殺戮 90%減少した。 ・一般的な戦争 40%減少した。 ・60の独裁者が、暴力を使わずほぼ完全に倒された（ルーマニアを除く）。 ・100の戦争が静かに終わった。 ・戦死者は2002年～2005年で約40%減少した。 ・世界の難民（国内避難民を含む）は、2003年～2005年に概算で34万2千人から32万1千人に減少し、新たに6%減少した。 ・統計上、テロは増えているが、ほとんどは中東、ペルシャ湾、南アジアで発生している。これを除き、他の地域では1991年から減少を続けている。「また、過去40年間、武力紛争と比べ、テロは比較的死者が少なかったことも特記に値する」
--

なかったのか、なぜ3年以上も誰も語らなかったのか、さらには、人々が平和運動をやめないように非現実的な楽観論を言っているのではないかと、と厄介な質問もされた。

彼も言うように、私たちは世界がよい方向に進んでいることを喜ぶと同時に、常に現実立脚していなければならず、ダルフール、イラク、アフガニスタンなどで戦争を終結できていない事実を認めなくてはならない。成功を祝えることもあるが、私たちの活動はまだまだ終わらないのである。

ニュースを広めようとする際に問題なのは、編集者はその日の主見出しを決めるのに、「死亡事件かどうか」で判断するということだ。つまり、暴力的な話題が1面や夜のトップニュースになりやすいのである。戦争産業に投資している会社や広告主にとっては、戦争が減少傾向にあるというニュースを広める意味がない。しかも、テロの脅威や敵から攻撃される恐怖をおおることが、利益につながると信じているトップもいる。これは国内問題から注意をそらし、戦争支援と軍事投資を増やす作戦だ。

アクションを起こす

『平和へのアクション 101+ 2』は、私たちがまとめた101の行動に、日本に関する2つの話を加えたものである。全国反核医師の会では、運動を広げるため、松井和夫医師⁶⁾がウェブサイトを立ち上げた。新たな取り組みをサイトに送り、平和に向けた独創的な活動を人々に活用してもらおうというのである。

最近の例をいくつか挙げてみよう。

アラブ人とユダヤ人の子どもがサッカーの混成チームをつくって試合し、チームづくりを通して信頼と協力関係を築く「フットボール4ピース (F4P) トーナメント」⁷⁾の取り組みや、手作りのキルトで平和への夢や希望を描き、それらを有力者に届ける活動⁸⁾も面白かった。

著名な音楽家と作家の呼びかけで、イスラエル人が初めてパレスチナでリサイタルを開くことができ⁹⁾、その後もユダヤ人とアラブ人の若いミュージシャンを集めてヨーロッパでコンサートを開き、譜面台や宿をともにすることで、過去からの憎しみの壁が取り払われた例もある。

神戸市議会は1975年、神戸港に核兵器を持ち込ませないことを決め、2007年3月、この議決を顕彰する記念碑が建立されたことも、特筆すべきだろう。労働組合などが実行委員会をつくり、多くの市民から寄付が集まったという。

「平和へのかけ橋としての健康」¹⁰⁾も、世界保健機関や、多くのNGOが賛同している。紛争中の両国の医療従事者が、双方の患者を救うため協力したり、国境を越えて医学の共同研究・執筆を行うものもある。

エルサレムで、ダイエット教室を通してイスラエル人とパレスチナ人の女性らが心を通わせたり¹¹⁾、イスラエルとパレスチナの両指導

者のダイエットを題材にドキュメンタリー作品『スリム・ピース』を撮影したりとユニークな活動が次々と報告されている。

個人の活動

元政治家や元軍幹部が反核の発言をすると、それぞれの専門知識と威信もあって広範な注目を集め、市民組織と同様に反核運動を広める。2009年6月4日、4人の元ノルウェー首相と、元外務大臣が核軍縮を呼びかけ、ドイツ、イタリア、ポーランド、イギリス、アメリカの元首相・外務大臣らが加わった。¹²⁾

その2年前、著名アメリカ人のジョージ・シュルツ、ウィリアム・ペリー、ヘンリー・キッシンジャー、サム・ナンは、核兵器のない世界の構想を復活させた。現在も他国から多くのリーダーたちが賛同している。ジョージらは、「はっきりとした構想がなければ、行動が公正かつ緊急なものを受け取られない。行動が伴わなければ、構想が現実的かつ可能なものとして理解されない」とし、構想と行動の関係を強調した。こうした活発な相互作用を生み出すため、構想と手段を真剣に考えなければならぬと、私たちは強く訴える¹²⁾。

目標は核兵器廃絶だけでなく、それらを生産する施設もない世界である。軍事目的の核分裂性物質はすべて破壊し、あらゆる核関連活動は国際的に厳しく管理されなければならない。

世界の備蓄兵器の90パーセント以上を保有するアメリカとロシアが第一歩を踏み出し、他の核兵器国が、世界的制限交渉に参加できるレベルまで、備蓄兵器を減らすべきである。すべての協定でバランスよく、立証可能な、より少ない軍力で、高度な安全を構築しな

なくてはならない。減少し続ける限り、相互抑止が世界安全保障の基本原則となるだろう¹²⁾。

おわりに

私たちは大きな変革の時にあり、戦争から遠ざかる動きはこの5000年で最も前進しているが、戦争を終わらせるという目的からはまだ遠く、警戒と行動を緩めてはならない。

ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)が年次報告を発表し、2008年の軍事費の概観を示した¹³⁾。これによると世界の軍事費は1兆4640億に達し、実質価格で前年比4%増、1999年から45%増加している。この支出レベルは、戦争から遠ざかっている世界、特に世界金融危機に直面した世界では意味が無い。それにもかかわらず、政府は市民からの強い圧力なしには軍事予算を引き下げそうにない。われわれの仕事は容易ではないが、最終的には勝利を確信できるだろう。

参照

- 1) Ashford, M.W. with Guy Dauncey. *Enough Blood Shed: 101 Solutions to Violence, Terror, and War*. New Society, 2007.
- 2) メリーウイン・アシュフォード著、松井和夫監訳『平和へのアクション101+2』(かもがわ出版)
- 3) Mack, Andrew. *War and Peace in the 21st Century: The Report of the Centre for Human Security* (2005)
- 4) Centre for Human Security. *Human Security Brief 2006*.
- 5) Human Security Report Project. *Mini Atlas of Human Security*.
- 6) 元保団連理事(非核平和民主主義担当部長)、和歌山県保険医協会理事
- 7) Football 4Peace international
- 8) Boise Peace Quilt Project
- 9) Silverstein, Richard. Daniel Barenboim: Music as a healing force for peace in Middle East. Tikun Olam: Make the World a Better Place. November 28, 2003.
- 10) WHO. What is Health as a Bridge to Peace?
- 11) Kraft, Dina. A Slim Peace. *Oprah Magazine*, June 2009, p. 143-46.
- 12) Five Former Norwegian Ministers Call for Nuclear Disarmament. *Reaching Critical Will E-News*. June 15, 2009.
- 13) Perlo-Freeman S., Perdomo C., Skons E., and P. Stalhanheim. *Military Expenditure*, in SIPRI Yearbook 2009.